(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-254648
(P2012-254648A)
(43)公開日　平成24年12月27日(2012.12.27)

(51)Int.Cl.			F I		テーマコード（参考）
B60N	2/48	(2006.01)	B60N	2/48	3B084
A47C	7/38	(2006.01)	A47C	7/38	3B087

審査請求 有　請求項の数 3　ＯＬ　（全 8 頁）

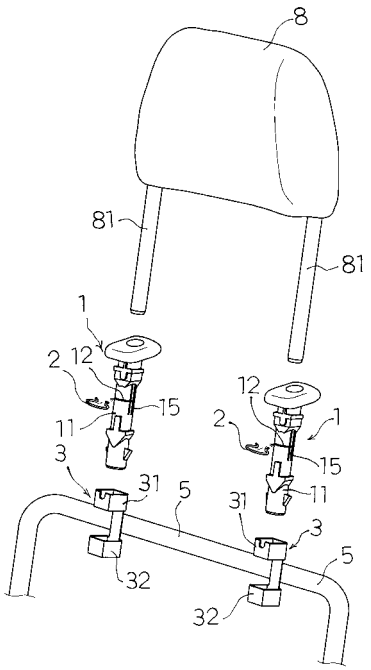
(21)出願番号　特願2009-231240 (P2009-231240)
(22)出願日　平成21年10月5日 (2009.10.5)

(71)出願人　000175630
三協株式会社
愛知県名古屋市北区平安一丁目１番５９号
(74)代理人　100097607
弁理士　小川　覚
(72)発明者　武藤　充隆
愛知県名古屋市北区平安一丁目１番５９号
三協株式会社内
(72)発明者　柴川　佳久
愛知県名古屋市北区平安一丁目１番５９号
三協株式会社内

Ｆターム(参考)　3B084 DB01　DB05　DD01
3B087 DC06

(54)【発明の名称】ヘッドレストサポート装置

(57)【要約】
【課題】ヘッドレストサポート装置を熱可塑性合成樹脂材を基礎に形成させ、全体の軽量化を図る。
【解決手段】車両用シートのシートバックの上方部に設けられて着座者の頭部を支持するヘッドレストを保持するとともに、その上下方向の高さ調整を行なうことのできるようにしたヘッドレストサポート装置を、ヘッドレスト８に設けられた２本のヘッドレストステイ８１、８１が嵌り込むとともに当該２本のヘッドレストステイ８１、８１を所定の位置に保持する役目を果たす２本のステイガイド１、１と、これらステイガイド１、１を形成するそれぞれの筒状部１１、１１の一部のところであって、その軸線方向の一部に形成される短冊状のステイ押圧部１５、１５と、これらステイ押圧部１５、１５を含む筒状部のところに設けられるものであって、当該ステイ押圧部１５、１５を内面側へ押圧するように作動する保持クリップ２、２と、からなるようにする。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
車両用シートのシートバック上方部に設けられるものであって着座者の頭部を支持するヘッドレストを保持するとともに、その上下方向の高さ調整を行なうことのできるようにしたヘッドレストサポート装置において、ヘッドレストを保持するヘッドレストステイ保持機構を、上記ヘッドレストに設けられたヘッドレストステイが嵌り込むとともに、当該ヘッドレストステイを所定の位置に保持する役目を果たすステイガイドと、当該ステイガイドを形成する筒状部の一部のところであって、その軸線方向に形成される短冊状のステイ押圧部と、当該ステイ押圧部を含む筒状部のところに設けられるものであって、上記ステイ押圧部を内面側へ押圧するように作動する保持クリップと、からなるようにしたことを特徴とするヘッドレストサポート装置。
【請求項２】
請求項１記載のヘッドレストサポート装置において、上記ステイガイドを形成する筒状部の外周部並びに当該筒状部の一部を形成する上記ステイ押圧部のところであってその長手方向略中央部のところに、上記保持クリップが係合するように形成された凹溝を設けるようにしたことを特徴とするヘッドレストサポート装置。
【請求項３】
請求項１または請求項２記載のヘッドレストサポート装置において、上記ステイガイドを所定の熱可塑性合成樹脂材にて形成させるとともに、上記保持クリップを鉄系金属材を用いてＣ字状の形態を有するようにしたことを特徴とするヘッドレストサポート装置。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、車両用シートに設けられるヘッドレストの、その上下方向高さを適当な位置に調整するとともに、その位置に固定することのできるようにしたヘッドレストサポート装置に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来のこの種のヘッドレストサポート装置としては、例えば特開２００６－１９８２２６号公報記載のもののようなヘッドレストサポートに関するものが挙げられる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００６－１９８２２６号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、上記従来のもの（先行技術に関するもの）は、その製造方法として、筒状の金型内へ所定のプラスチック材を注入することによって行われるインジェクション成形手段が採られるようになっている。そして、その型出しに際しては、上記インジェクション成形手段にて形成された本部材を筒状の金型から、その軸線方向へ強引に引抜くことによって行なわれるようになっているものである。その結果、バネ反力を生じさせるために設

けられた湾曲部等にダレが生じ、全体的に十分なバネ反力を形成させることが難しいと言う問題点がある。このような問題点を解決するために、上記湾曲部を有しない形状からなるヘッドレストサポート装置を提供しようとするのが、本発明の目的（課題）である。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

上記課題を解決するために、本発明においては次のような手段を講ずることとした。すなわち、請求項１記載の発明である第一の発明においては、車両用シートのシートバック上方部に設けられるものであって着座者の頭部を支持するヘッドレストを保持するとともに、その上下方向の高さ調整を行なうことのできるようにしたヘッドレストサポート装置に関して、ヘッドレストを保持するヘッドレストステイ保持機構を、上記ヘッドレストに設けられたヘッドレストステイが嵌り込むとともに当該ヘッドレストステイを所定の位置に保持する役目を果たすステイガイドと、当該ステイガイドを形成する筒状部の一部のところに、その軸線方向に短冊状に形成されるステイ押圧部と、当該ステイ押圧部を含む筒状部のところに設けられるものであって、上記ステイ押圧部を内面側へ押圧するように作動する保持クリップと、からなるようにした構成を採ることとした。

【０００６】

次に、請求項２記載の発明である第二の発明においては、請求項１記載のヘッドレストサポート装置に関して、上記ステイガイドを形成する筒状部の外周部並びに当該筒状部の一部を形成する上記ステイ押圧部のところであってその長手方向略中央部のところに、上記保持クリップが係合するように形成された凹溝を設けるようにした構成を採ることとした。

【０００７】

次に、請求項３記載の発明である第三の発明においては、請求項１または請求項２記載のヘッドレストサポート装置に関して、上記ステイガイドを所定の熱可塑性合成樹脂材にて形成させるとともに、上記保持クリップを鉄系金属材を用いてＣ字状の形態を有するようにした構成を採ることとした。

【発明の効果】

【０００８】

請求項１記載の発明である第一の発明について説明する。本発明によれば、上記構成を採ることにより、筒状体からなるステイガイドの一部にて形成されるものであってステイガイドと同軸状に形成される本ステイ押圧部は、全体がヘッドレストステイに沿った状態で存在するようになり、ヘッドレストステイをその長手方向に長い範囲で押え付けることができるようになる。そして、このようなステイ押圧部の長手方向中央部のところには本ステイ押圧部を内側へ押圧するように作動する保持クリップが設けられるようになっている。従って、この保持クリップの作用によって、上記ステイ押圧部はヘッドレストステイ側へ常時押付けられるようになり、これによって、本ヘッドレストサポート装置周りへの振動入力時に、上記ヘッドレストステイ及びステイガイド周りに生ずるおそれのある異音等を効果的に抑制することができるようになる。

【０００９】

また、請求項２記載の発明である第二の発明によれば、上記保持クリップは、その平面形態が略３／４円状の円弧状形態からなるものであり、このような円弧状形態からなる本保持クリップはステイガイド等に設けられた凹溝内に嵌り込むように設置されるようになっている。従って、上記短冊状のステイ押圧部は、上記保持クリップによる締付力によって、より強力に上記ステイ表面へと押付けられることとなる。従来のものにおいては永年の仕様等により接触部にクリープによる変形が生じ、ステイガイドとヘッドレストステイとの間にガタ等が生ずると言う問題点がある。これに対して本発明のものにおいては、上記保持クリップのバネ力によってステイ押圧部はヘッドレストステイ側へ常時押付けられるようになり、ヘッドレストの上下作動は常に円滑に行なわれるようになる。また、ヘッドレストステイを保持するステイガイド周りからの異音の発生等が抑止されるようになる。

【００１０】
また、請求項３記載の発明である第三の発明によれば、上記ステイ押圧部を含むステイガイドをＰＰ（ポリプロピレン）等を含む所定の熱可塑性合成樹脂材にて形成させるとともに、上記ステイ押圧部のところに設けられる保持クリップをピアノ線（ＳＷＰ－Ｂ）等の鉄系金属材からなるようにしたので、緊迫力を強力に発揮させることができるようになる。その結果、本ヘッドレストステイ装置への振動入力時において、ヘッドレストステイ周りからの異音の発生等を効果的に抑制することができるようになる。
【図面の簡単な説明】
【００１１】
【図１】本発明の全体構成を示す展開斜視図である。
【図２】本発明の主要部を成すステイガイドと、そこに嵌り込む保持クリップとの関係（結合状態）を示す縦断面図である。
【図３】ステイガイドに設けられた凹溝内にＣ字状の平面形態からなる保持クリップが装着された状態を示す立体斜視図である。
【図４】Ｃ字状の形態からなる保持クリップのステイガイド凹溝内への装着状態を示す横断面図である。
【図５】シートフレームに設けられたホルダ内にヘッドレストステイが保持クリップを介して保持されている状態を示す横断面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１２】
本発明を実施するための形態について、図１ないし図５を基に説明する。本実施の形態にかかるものは、車両用シートのシートバックの上方部に設けられるものであって着座者の頭部を支持するヘッドレストを保持するとともに、その上下方向の高さ調整を行なうことのできるようにしたヘッドレストサポート装置に関するものである。その具体的構成について図１を基に説明する。すなわち、このものは、ヘッドレスト８に設けられた２本のヘッドレストステイ８１、８１が嵌り込むとともに当該２本のヘッドレストステイ８１、８１を所定の位置に保持する役目を果たす２本のステイガイド１、１と、これらステイガイド１、１を形成するそれぞれの筒状部１１、１１の一部のところであって、その軸線方向の一部に形成される短冊状のステイ押圧部１５、１５と、これらステイ押圧部１５、１５を含む筒状部のところに設けられるものであって、上記ステイ押圧部１５、１５を内面側へ押圧するように作動する保持クリップ２、２と、からなることを基本とするものである。なお、上記保持クリップ２、２は、例えば図４に示す如く、その平面視形態がＣ字状の形態からなるものである。従って、本実施の形態においては、上記保持クリップをＣクリップ２、２と称することとする。
【００１３】
このような基本構成からなるものにおいて、筒状の形態からなるステイガイド１の具体的構成について説明する。このものは、例えば図１、図２、図３に示す如く、ポリプロピレン樹脂（ＰＰ）等の熱可塑性合成樹脂材からなるものであり、このような合成樹脂材を基礎に筒状の形態からなるように成形加工されたものである。そして、このような筒状体からなるステイガイド１の外周面上の一部には、軸線方向に短冊状に形成されたステイ押圧部１５が設けられるようになっている（図３参照）。なお、この短冊状のステイ押圧部１５は、その長手方向の両端末部のところが、周りの筒状部１１のところに一体的に結合されるようになっている。そして、このような短冊状のステイ押圧部１５の長手方向略中央部のところ並びに当該ステイ押圧部１５を保持するように形成された円筒状のステイガイド１の外周部のところには凹溝１２、１５２が設けられるようになっている。そして更に、このような凹溝１２、１５２のところには、例えば図４及び図５に示す如く、３／４円状の形態からなる保持クリップ、すなわち、Ｃクリップ２が嵌り込むようになっている。
【００１４】
このＣクリップ２は、その平面視がオーム（Ω）の形態からなるものであり、素材とし

ては、ピアノ線（ＳＷＰ－Ｂ）等の線材が採用され、このような線材が曲げ成形加工されることによって所定の形態に形成されるようになっているものである。具体的には、図４に示す如く、３／４円状の円弧長さを有するように形成された円環部２２と、当該円環部２２の両端末部のところに上記円環部２２に連続してハ字状に開くように形成されたガイド部２１、２１と、からなることを基本とするものである。

【００１５】

このような構成からなるものにおいて、本Ｃクリップ２は、その円環部２２のところが、ステイガイド１に設けられた凹溝１２内に、更にはステイ押圧部１５に設けられた凹溝１５２内に嵌り込んで、上記ステイ押圧部１５を内側へ、すなわち、ステイ押圧部１５をヘッドレストステイ８１の表面側へ押し付けるように作動するようになっている。これによって、ヘッドレストステイ８１、８１は所定の位置に保持されるとともに、当該ヘッドレストステイ８１、８１を保持するステイガイド１、１周りからの異音の発生等を防止することができるようになる。

【００１６】

このような構成からなるＣクリップ２の装着に当っては、まず、Ｃクリップ２の開口端部に形成されたハ字状に開いた状態のガイド部２１、２１のところを、ステイ押圧部１５に設けられた凹溝１５２内へ、更には、上記ステイガイド１に設けられた凹溝１２内へ嵌り込ませて仮係合させる。このような状態において、上記Ｃクリップ２の円環部２２のところを上記ステイガイド１に設けられた凹溝１２内へ、更にはステイ押圧部１５に設けられた凹溝１５２内へ嵌り込ませるように押込む。そして、このとき、上記両ガイド部２１、２１の付け根部２１５、２１５のところを、図４に示す如く、ステイガイド１に設けられた筒状部１１の一部に形成された保持部１１５、１１５のところに当接させるようにする。これによって、Ｃクリップ２は、ステイガイド１の外周面上に確実に取付けられるようになり、ステイ押圧部１５は、その外側から内周面側へ向って確実に押し付けられるようになる。また、これによって、Ｃクリップ２の円周方向位置決めが確実に行われるようになる。

【００１７】

その結果、本ステイ押圧部１５によるヘッドレストステイ８１外周面側への押付力が確実に保持されることとなる。これによって、ヘッドレスト８の高さ（位置）調整が円滑に行なわれるようになる。また、本実施の形態のものにおいては、このような構成を採ることにより、本ヘッドレスト装置への振動入力に対して、上記ヘッドレストステイ８１、８１周りからの異音（ガタ付き音）の発生等が効果的に抑止されることとなる。

【００１８】

そして、このような構成からなるステイガイド１、１は、図１に示す如く、シートフレーム５の上方部に設けられた中空状のホルダ３のところに装着されるようになっている。なお、この中空状のホルダ３は、例えば図５に示す如く、その横断面形状が４角形の形態を有しているとともに、このような４角形状のホルダ３は、上下に２分割されて設けられるようになっている。すなわち、ホルダ３は、例えば図１に示す如く、上側のホルダ３１と下側のホルダ３２とからなり、これによってホルダ３の軽量化が図られるようになっている。また、このように上下２個所にてステイガイド１を保持することによって、ステイガイド１の保持が確実に行なわれることとなる。

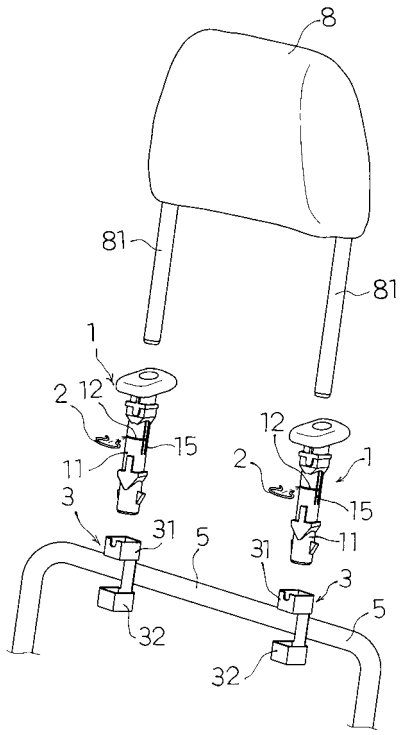
【符号の説明】

【００１９】

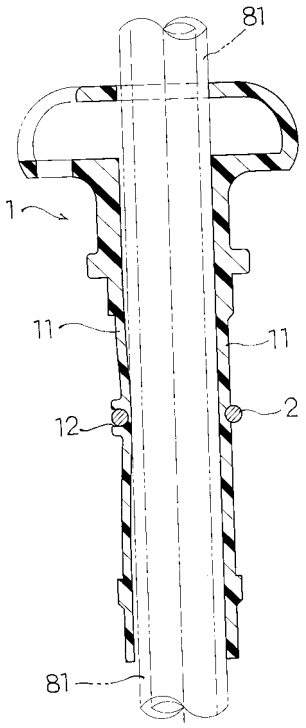
１　ステイガイド
１１　筒状部
１１５　保持部
１２　凹溝
１５　ステイ押圧部
１５２　凹溝
２　保持クリップ（Ｃクリップ）

２１　ガイド部
２１５　付け根部
２２　円環部
３　ホルダ
３１　上側のホルダ
３２　下側のホルダ
５　シートフレーム
８　ヘッドレスト
８１　ヘッドレストステイ

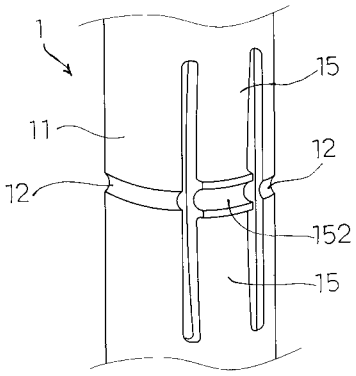
【図１】


8
81
81
1
2
12
15
11
3
31
5
32
12
2
1
15
11
31
3
5
32

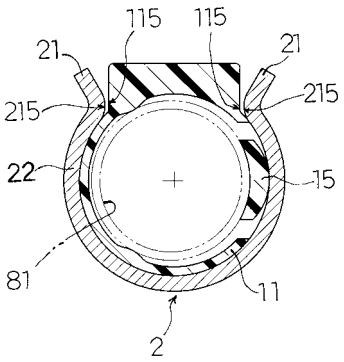
【図２】


81
1
11
11
12
2
81

【図３】


1
15
11
12
12
152
15

【図４】


115
115
21
21
215
215
22
15
81
11
2

【図５】

